

授与する学位の名称	博士(神経科学) [Doctor of Philosophy in Neuroscience]	
人材養成目的	脳の働きに関する広範な学術的基盤を有し、高次脳機能としての人の心の理解に貢献できる神経科学の専門家として、研究者、高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・正常および障害のある脳機能についての最高度の専門知識と解析技術を備え、基礎・応用研究を推進できる人材 ・神経科学分野の広範な領域の専門的および学際的見識をもとに、現代社会が抱える様々な心や行動の課題に敏感かつ真摯に向き合い解決に寄与できる人材 ・国内外の教育・研究機関において、人材育成や学際的研究を牽引できる人材 ・研究者倫理に基づき、神経科学分野のプロフェッショナルとしての行動する意識、自己管理能力、人間力を持った人材 	
修了後の進路	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の大学、研究機関、企業研究所の研究員 ・国内外の高等教育機関の教員および障害科学領域の専門職 	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか 	学術院共通専門基盤科目、神経科学専門セミナー1・2・3、博士論文研究指導1・2・3・4、学会発表、投稿論文作成、博士論文作成など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか 	キャリアプラン・研究者倫理・TF トレーニングセミナー、神経科学専門研究インターンシップ 学会発表、投稿論文作成、博士論文作成など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときも、質問に的確に答えることができるか 	キャリアプラン・研究者倫理・TF トレーニングセミナー、高度専門科学英語 1・2、神経科学専門研究インターンシップ 学会発表、一般の人が参加する講演会での発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか 	キャリアプラン・研究者倫理・TF トレーニングセミナー、神経科学専門研究インターンシップ、TFでの経験、学外の研究者への共同研究の提案など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	高度専門科学英語 1・2、博士論文研究指導 1・2・3・4、留学生との交流、TOEIC 得点、外国人との共同研究など
6. 高度専門知識: 神経科学分野において、先端的な研究計画の立案・実施と、優れた研究成果を得られるだけの専門的な知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 神経科学分野の専門的知識に基づいて新たな課題を発見することができるか ② 発見した課題を解決するための研究計画を立案、実施することができるか 	神経科学専門セミナー1・2・3、学会発表、博士論文作成など
7. 高度研究実践スキル: 研究者倫理に基づき、神経科学分野において、ヒトや動物を対象とした先端的な研究(実験・調査)を実施できる能力。	神経科学分野における先端的な研究手法を用いて、研究課題を解決することができるか	
8. 研究情報収集・成果発信力: 英語を適切に使用し、研究成果の発表や、研究上のディスカッション等を行うに足る文章力、表現力、ディベート力。	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際誌に掲載された神経科学分野の最新の研究動向を把握し、自らの研究に活かすことができるか ② 神経科学分野の専門知識や研究成果について、国際的な場面においても的確に説明することができるか 	高度専門科学英語 1・2、神経科学専門セミナー1・2・3、神経科学専門研究インターンシップ、博士論文研究指導 1・2・3・4、RA での経験、学会発表、博士論文作成など

9. 実践的研究力:神経科学分野の専門知識を活かして、実社会での問題解決に向けての活動を実践する企画力、指導力	神経科学分野の専門知識を活かし、実社会での問題解決に向けての活動を実践、指導できるか	神経科学専門セミナー1・2・3、神経科学専門研究インターンシップ、博士論文研究指導 1・2・3・4、企業との共同研究など
10. 神経科学分野の先端的研究の立案、実施、成果発信を論理的思考に基づいて推進できる能力。	神経科学分野の先端的研究の立案、実施、成果発信を論理的思考に基づいて行うことができるか	高度専門科学英語 1・2、博士論文研究指導 1・2・3・4 学会発表、博士論文作成など

学位論文に係る評価の基準

筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、最終試験によって以下の2つの基準を満たすことが確認され、合格と判定されること。

1. 学位論文において、神経科学分野における新たな学術的知見が十分含まれる。
2. 神経科学分野で自立した研究者として、研究活動を行うに必要な高い研究能力を有する。

(評価項目)

1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、神経科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。
2. 神経科学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、学術論文として発表するのに相応しい量含まれていること。
3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。
4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。
5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、神経科学分野の博士論文に相応しい形式にまとめていること。

なお、学位論文の審査を願う出ようとする者は、事前に専攻における予備審査に合格しなければならない。

(審査委員の体制・審査方法)

学位プログラム内の3名の教員(主査は研究指導担当教員)および学位プログラム外の1名の教員等、計4名により学位論文審査委員会を構成し、全員の出席のもと最終試験として学位論文およびその関連分野に関する口述試験を行ったうえで、合格を判定する。

カリキュラム・ポリシー

- 1) 神経科学全般の専門的知識や研究手法の修得に基づく研究力、2) 論理的思考力、文章力、高度な英語表現力、ディベート力、3) 他領域の専門家との協働に必要な コミュニケーション力、企画力、4) 研究者倫理の理解と実践、研究者としての自己管理能力及び研究指導力、5) 基礎科学の研究成果を社会へ発信する力、社会が抱えるところの課題に敏感かつ真摯に向き合うプロフェッショナルとしての意識とそれを支える人間力を修得するためのカリキュラムとする。

教育課程の編成方針

- ・「キャリアプラン・研究者倫理・TFトレーニングセミナー」を必修科目とし、神経科学の専門研究者、教育者としての基盤を養成する。特に、MyIDP などの活用によるキャリアプランの明確化、自己管理能力の強化を促す。
- ・また、自由科目として、前期課程で未履修の「学術院共通基盤科目(科目は自由に選択)」、大学院共通科目の「研究倫理」、「応用倫理」などの履修を推奨し、より幅広い視野の涵養を図り、既存の学問体系にとらわれない柔軟な思考力、研究企画力を養成する。
- ・専門基礎科目として「高度専門科学英語」を開講し、英文投稿論文・博士論文作成、国際学会や国際共同研究の場でのコミュニケーション、ディベートに資する高度な科学英語力を養成する。
- ・学内・外の研究組織が開催する研究セミナーに参加する「神経科学専門セミナー」、国内外の教育・研究機関が提供するトレーニングコースへの参加を奨励する「神経科学専門研究インターンシップ」を開講し、神経科学の専門的研究に必須となる最先端の技法や知識の習得や、実践の現場での研究活動の実体験を促す。
- ・前期課程開設科目である神経科学基礎論の Review/Discussion、英語ジャーナルクラブ、神経科学先端研究セミナーでのファシリテーターでの TF 経験を通して、研究指導力を養成する。
- ・「博士論文研究指導」として、6つの必修科目の開設し、博士論文研究のテーマ決定、研究の実施、3回の博士論文研究資格試験、博士論文作成、博士論文最終試験、博士論文最終公开发表、博士の学位取得までの過程を段階的に指導することにより、標準年限内での学位の取得と質の保証を図る。

学修の方法・プロセス

- 1 年次の学修
- ・入学直後開講される「キャリアプラン・研究者倫理・TFトレーニングセミナー」を履修し、博士取得までの学修計画および修了後の進路計画を自ら考え策定する。また、研究者倫理について学習するとともに、前期課程開設科目の TF として指導に関わるための基礎講習を受講する。
 - ・「学術院共通基盤科目(科目は自由に選択)」を履修し、研究者としての幅広い視点を身につける。
 - ・「高度専門科学英語 1」、「神経科学専門セミナー1」の必修科目を履修し、高度な英語コミュニケーション力、ディベート力、英語読解力および神経科学の専門的、先端的知識や研究手法を身につける。また、「神経科

	<p>学専門研究インターンシップ」を履修し、国内・外の大学・研究機関での研究体験を積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「博士論文研究指導1」を履修し、博士論文研究のテーマ決定、文献研究、予備研究を実施する。「博士論文研究指導2」では、博士論文研究を進める。合わせて、博士論文研究資格試験(QE1)の準備を進める。 <p>2年次以降の学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神経科学専門セミナー2」の必修科目、自身の学修計画に応じて「高度専門科学英語2」、「神経科学専門セミナー3」の自由科目、「学術院共通基盤科目(科目は自由に選択)」や他学位プログラムが開講する科目を履修し、神経科学の専門研究者としての学習を進める。 ・「博士論文研究指導3」を履修し、博士論文研究を進める。合わせて、博士論文研究資格試験2(QE2)の準備を進める。「博士論文研究指導4」では、博士論文研究を進める。合わせて、博士論文研究資格試験3(QE3)の準備、国際誌投稿論文の作成を進める。 ・「博士論文研究指導5」を履修し、博士論文作成を進める。「博士論文研究指導6」では、博士論文を完成する。合わせて、博士論文最終試験、博士論文最終公開発表に向けての準備を行う。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「博士論文研究指導2～6」以外の科目の評価は、シラバスに記載する評価方法に従って行う。 ・「博士論文研究指導2～6」の科目は、主・副指導教員の評点に加え、下記により評価の上、単位認定する。 <ol style="list-style-type: none"> (1)「博士論文研究指導2」: 博士論文研究資格試験1(QE1)を行う。合格者にのみ博士論文研究指導2の単位を認定する。 (2)「博士論文研究指導3」: 博士論文研究資格試験2(QE2)を行う。合格者にのみ博士論文研究指導3の単位を認定する。 (3)「博士論文研究指導4」: 博士論文研究資格試験3(QE3)として、博士論文の草稿の提出を求め、主査・副査による書面審査及びその内容に関する口頭試問を行う。合格者にのみ博士論文研究指導4の単位を認定する。 (4)「博士論文研究指導5」: 博士論文提出の要件となる、筆頭著者として発表する査読付き英語投稿論文1編の採択者のみに博士論文研究指導5の単位を認定する。 (5)「博士論文研究指導6」: 博士論文研究最終試験を実施する。提出されたDissertation形式の博士論文に基づく公開発表、口頭試問を行い、可否を決定する。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	博士前期課程において、神経科学、心理学、障害科学、生物学、基礎医学を専攻した者。前期課程で一定の力をつけていることを前提とし、修了後研究者として自立する能力と意欲を有する人材。
入学者選抜方針	入学試験は口述試験により行う。選抜に当たって重視する資質は、①博士前期課程(修士課程)で行った研究の内容と理解度、②研究企画力、③プレゼンテーション能力とする。

